



赤林英夫 先生

専門：応用ミクロ、家族と教育の経済学

(インタビュアー：小野・小原)

『家族と教育の経済学 学力はどのように形成されるのか？』

Q. 赤林先生の専門とされている研究内容はなんですか？

主に日本の教育政策の効果を様々なアプローチで測定し、分析することですね。また、教育政策の効果を測るには家族の影響を無視することはできません。ですので、同時に家族の影響も分析しています。

残念ながら、日本では「学力がどのように形成されて変化していくのか」ということが、ちゃんと研究されていないのが現状です。まずはその変化をしっかりと追っていく。具体的には現在、長期的に見て学力の変化と社会生活や経済生活との間にどのような相互関係があるのか、という研究プロジェクトの運営を行っています。

その他に私が公表した研究では「少人数教育はほんとに効果があるのか？」「高等学校の学費軽減は高校中退を抑止できるのか？」というものがありますね。

『重要なのはダイバーシティー！』

Q. 赤林先生の教育理念を教えてください

慶應に来るほど学生には皆それぞれに得意分野があると思っています。なので、ダイバーシティーが大事ですね。地方出身者や他学部の生徒、留学生、様々な背景を持つ学生を取っていきたいですね。様々な背景の裏側で、皆受けてきた教育や家庭環境が違うわけです。当然自分の持つ意見も変わってきます。そういった学生による議論が欲しいです。特に我々のような分野では同じような背景を持つ学生の議論ではほとんど意味がないわけです。まあ毎年そこまで倍率が高くないので、贅沢は言えないわけですが… (笑)。とにかく、ゼミ中は誰にでも発言するチャンスを与え、やる気とダイバーシティーを重視する教育を心がけています。

『回り道をした学生時代！最初は理系でした…』

Q. 赤林先生の学生時代のお話を聞かせてください

私は元々は理系の出身でした。「大学で勉強するなら理系かな？文系の勉強は社会に出てからでも…」という思いがありました。回り道的な性格が出ていたわけです。ですが、何がやりたいというのは結局決まらず、理科系の色々な勉強をしていましたね。

学生生活の途中から経済学がやりたくなったんですが、経済学の大学院に入るためには経済学の試験を受けなければいけないということに気が付いたんです！ちょっと勉強したくらいじゃ無理だ…どうしよう…と思い、とりあえず経済の現場を見てみようと思って、理科系職の試験を受けて役所に入ったわけです。理科系職なので、経済学の試験はありませんでした。しかし、当時の役所では経済学が全く利用されておらず、がっかりしましたね。

そこで海外の大学院を目指しました。というのも海外の大学院は経済学の予備知識なしで受けられるという噂を聞いたわけです。私が入ったシカゴ大学は実は一番行きたくなかった大学だったんです。当時、シカゴ大学はとても評判が悪かったのですが、そこしか奨学金が取れなかったので「これも運命か…」と思って入学したわけです。少数派に入るという意味では楽でしたね。少数派で、比較されず、認知されないというのがその時の私のやり方だったので。そしたら！その年からシカゴ大学からノーベル賞が連続で出て、あっという間に注目されて、改めて「運命」だと思っていました。これで就職もできるかなと思いました（笑）。ただ、一つだけ言えるのは常に他の人からは一歩ずれた道を進んできたことですね。その時からニッチ思考というものがあったわけです。じゃあなんで慶應なんて有名な大学にいるんだってことになりますが…

『やる気のある学生、何か持っているという学生待ってます！』

Q 赤林ゼミを志望する2年生に求めるものは何ですか？

回り道をしてきた学生大歓迎！私も回り道をしてきましたので（笑）。そういった経験は必ずどこかで生きてくると思っています。異なる経験をしてきた人、そういった学生たちで問題意識を高めたいです。最低限の勉強はしっかりして、やる気がある人ですね！今年から英語を積極的に導入していますので、スキルを高めたい人も歓迎しています。「やればできるという」気持ちのある人、そして「俺は何か持っている！」という過剰な自意識の人。いいんじゃないですか

ね（笑）。まとめると「やる気・多様性・基礎学力」ですかね。

『好奇心を持って、自分の世界を変えよう！』

☆最後に2年生へのメッセージをお願いします☆

こういうの苦手なんですけど…そうですね。社会常識つけてきてほしいかな（笑）。世の中広く見て、好奇心を持って、社会の隅々まで関心を持ってほしいです。自分の見ている世界は狭い、東京だけ知っていてもダメ、日本だけ知っていてもダメ。隅々まで関心を持ってくれば自分の世界が変わると思いますね。